

## 新たな時代への幕開け

山田 文典

薫風香る武徳殿におきまして、第五回世界武徳祭・第五十四回全国武徳祭が世界から集結した武道家約七三〇人が堂々と平素鍛え上げた武道を披露されましたことは、私にとつて感動の時でありました。

その前日での表彰式では予想にもせんでした理事長賞を頂き身の引き締まる思いであります。ありがとうございました。

今回の武徳祭では、当流派は初めて二団体として参加致しました。故毛利友彦元春宗家からの教えを次世代に繋げるべく門弟がそれぞれの地で道場を構え七箇所を数えるまでに至り、昨年に村上亨師範が一心無双流千葉剣心会を独立され、共存共栄をはかりながら相互に切磋琢磨し、毛利宗家の教えを正確に次の時代へ向かっております。

道場には、ポーランドやイギリス（ウエールズ）の剣士も在籍しており、流暢な日本語もさることながら、その熱心な修行の姿勢は日本人にも勝るとも劣らないものがあります。稽古はもとより所作、礼法に至るまで少しも妥協せず自己への課題は高いものを感じます。今後の大会に出場致しましたら是非彼らの演武にも注目してほしいと思います。

今回で五回を数える世界武徳祭は、当初から参加の顔なじみの国際部武道家も何人かおられ、彼等もそれぞれの国で、新たな入門者を迎

えて更に活発な活動をされていくと思います。濱田鉄心代表理事が、閉会の挨拶の中で、世界武徳祭を当初開催するにあたり当面五回は行おうと決め、五回を達成したと述べておられました。次回の第六回からは、国内外の武道家が育んだ堅い絆をもとに全員が主になって開催することが必要です。今回の世界大会は、五回目ではなく、一般社団法人大日本武徳会の「新たな幕開け」となつたと思います。今回高田寛次先生をはじめ多くの諸先生にご指導頂いたことに深く感謝致します。

